

第 39 回 PCV 漏えい試験検討会 議事録 (案)

1. 開催日時 2023年9月28日(木) 13時35分～15時10分
2. 開催場所 日本電気協会 D会議室
3. 出席者(順不同, 敬称省略)
出席委員: 森主査(関西電力), 飯村副主査(東京電力HD),
今泉(日本原子力研究開発機構), 今村(日立GEニュークリア・エナジー),
大塚(北陸電力), 小川(北海道電力), 釜倉(電源開発),
日下(日本原子力発電), 高永(三菱重工業), 高野(発電設備技術検査協会),
高橋(東北電力), 多田(中国電力), 堀水(原子力安全推進協会),
増田(九州電力), 水野(中部電力), 渡部(四国電力) (計16名)
代理出席者: 青木(関西電力, 西村委員代理) (計1名)
欠席委員: 深井(東芝ESS) (計1名)
説明者: 高橋(電力中央研究所) (計1名)
事務局: 景浦, 田邊(日本電気協会) (計1名)
4. 配付資料 No.
資料 No.39-1 原子力規格委員会 構造分科会 PCV 漏えい試験検討会 委員名簿
資料 No.39-2 第 38 回 PCV 漏えい試験検討会議事録 (案)
資料 No.39-3 JEAC4203-20XX (原子炉格納容器の漏えい率試験規程) 改定ニーズ調査表
資料 No.39-4 JEAC4203-2017 技術評価書 (R3.7.21) における要望事項一覧表
資料 No.39-5 PCV 漏えい試験検討会 活動スケジュール (案)
5. 議事
事務局より, 本会にて, 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後, 議事が進められた。
 - (1) 代理出席者の承認, オブザーバ等の確認, 会議定足数, 配付資料 No. の確認について
事務局から, 資料 No.39-1 に基づき下記委員変更の紹介があり, 委員候補については, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 4 項に基づき, 構造分科会で承認の予定であるとの紹介があった。その後, 代理出席者 1 名の紹介があり, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 7 項に基づき, 主査の承認を得た。代理出席者も含めて, 委員総数 18 名に対して, 出席者は 17 名であり, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 15 項に基づき, 会議開催条件の「委員修 2/3 以上の出席 (12 名以上)」を満たしていることを確認した。また, 事務局より配付資料の確認を実施した。
 - ・委員退任 西村 委員 (関西電力)
 - ・新委員 青木 氏 (同左)
 - (2) 前回議事録の確認 (審議)
事務局から, 資料 No.39-2 に基づき, 前回議事録案を紹介し, 正式議事録にすることについて, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 15 項に基づき, 決議の結果特にコメントはなく, 5 分の 4 以上の賛成で承認された。
 - (3) 審議
 - 1) JEAC4203-20XX 改定について
森主査及び各担当委員より, 資料 No.39-3 及び資料 No.39-5 に基づいて, JEAC4203-20XX 改定について説明があった。

主なご意見コメントは下記のとおり。

- ・ 今回パフォーマンスベースの報告書を出して頂いて、中身を各社の委員が見て、委員から指摘があったところを再確認したということか。
- そうである。BWR については、参考-3 に示してある。
- ・ 事業者にお聞きしたい。A 種試験の実施頻度を延長した際には、代替の B、C 種試験を今後も実施したいと思っているのかということと、今回改定する時に PWR, BWR でプラント形式により併記記載をしておくのか、あるいは別記載とするのかを聞きたいと思っている。
- PWR に合わせようと思っているが、BWR プラントとしては、設備対応まではしていない。
- ・ 弊社の BWR では、B、C 種試験については実施したいと考えているが、設備改造までは話が及んでいない。ということで、JEAC4203 については併記して頂き、弊社においても A 種試験の実施頻度延長ということを検討したいと考える。
- ・ 弊社の BWR についても、直ぐに出来るものではないが、設備改造の時期とか、スケジュール感についてはすぐには答えられない。一旦持ち帰り社内で検討してから回答したいと思う。
- ・ 弊社の BWR では設備改造をするところまでは至っていない。しかし A 種試験の延長に関しては、望ましい方向と思っているので、特段の問題が無ければ、PWR, BWR 併記が望ましいかと思う。
- ・ 弊社の BWR としても、設備改造については現状話せる段階ではないが、B、C 種試験についても、BWR, PWR 併記ということで進めていきたいと考えている。
- ・ 問題が無いのであれば PWR, BWR 併記ということで進めたいと考える。BWR については米国も含めて、どの様な手段で試験を実施しているのかを GE に確認したいと考える。

2) JEAC4203-2017 技術評価書 (R3.7.12) における要望事項について

森主査より、資料 No.39-4 に基づいて、JEAC4203-2017 技術評価書 (R3.7.12) における要望事項について説明があった。

主なご意見コメントは下記のとおり。

- ・ 特になし。

(4) その他

- ・ 次回 PCV 漏えい試験検討会の開催日については、改定作業状況を確認し、別途事務局より連絡する。

以 上